フィンランド語の第３不定詞を伴う動詞 *panna* ‘put’ の意味

千葉　庄寿 (しょうじゅ) (博士課程)
2000/06/19 言語学演習

1　動詞 panna の用法

本発表では，動詞 panna が第３不定詞を伴って現れる場合と，第３不定詞を伴わないで現れる場合で，panna の意味にどのような違いがあるかを考察する。

第３不定詞を伴わない場合，panna は典型的には名詞の入格形 (「〜の中に」という意味を表す) を伴って現れる。この時，panna は，ものを人間が手にとって特定の場所に置くことを表すのが，最も典型的であると考えられる。フィンランド語の辞書 *Suomen kielen perussanakirja* (1997[2], 以下 PS) からは，この意味に対応する以下のような例がみつかる (例文のグロスに用いる略号は，レジュメ末にまとめて示した。また，panna の意味のグロスは ‘put’ で統一することにする)。

(1)　*pan-na*　*kirja-t*　*laukku-un*
　　put-1INF　book-PL.ACC　bag-ILL　「本を鞄の中に入れる」(PS，項目 1.)

この例は，panna の主体が，目的語の指示対象である「本」を手にとって，入格で現れている名詞句の指示対象である「鞄」の中に置く，という状況を表している。

これに対し，動詞 panna と共に，**第３不定詞**と呼ばれる，非定形の動詞形 (3INF) が入格をとって現れることがある。この場合，panna は「〜に働きかけて〜をさせる」といった意味を表す。PS からの例文を挙げる。

(2)　*Äiti*　***pan-i***　*poja-n*　*pyytä-mä-än*　*anteeksi.*
　　mother.NOM　put-IMP.3SG　boy-ACC　ask-3INF-ILL　sorry
　　「母親は息子を謝らせた」 (PS, 項目 4.)

この例は，panna の表す行為の主体である「母親」が目的語の指示対象である「息子」に命じ,「謝る」という行為をさせる，という状況を表している。

同じ動詞 panna が，一方で「物をある場所に置く」という意味を表し，一方で「〜に働きかけて〜させる」という意味を表す。この全く異なる panna の２つの意味を，どのように捉えたらよいのであろうか。

PS は，動詞 panna の主な用法を以下のようにまとめている (辞書の **例文** は，動詞 *panna*, 目的語, その他の要素の順で単語を並べてある)。

1. ものをある場所に置く，移す，移動する [原文: asettaa, siirtää, sijoittaa, pistää, työntää, sovittaa jokin johonkin paikkaan]

   例文 ***Panna*** *käsineet käteen* 「手に手袋をはめる」; ***Panna*** *ruoka pöytään* 「料理をテーブルに置く」 (例文 (1) も参照)

2. ものをある場所，状況，状態にもっていく；ものの場所や状態を別なものに変化させる；[saattaa jokin johonkin tilaan, asentoon tai asemaan, muuttaa jonkin tila, asento, asema tai olomuoto toisenlaiseksi]

   例文 ***Panna*** *kone käyntiin* 「機械を動かす」; ***Panna*** *ovi auki* 「ドアを開ける」

3. 人やものをある地位や位置に任ずる，置く；人に支払いを課す，値段を示す [määrätä, asettaa, sijoittaa joku tai jokin johonkin tai joksikin; määrätä, asettaa jollekin hinta, maksu tms.]

   例文 ***Panna*** *joku syytteeseen* 「誰かを罪に問う，告訴する」; ***Panna*** *lapsi kouluun* 「子供を学校にやる」

4. 人に何かをさせる [pakottaa, saattaa tai saada joku tekemään jotakin]

   例文 例文 (2) を参照

PS で挙げられている panna の用例を見ると，文の表す内容が，例文 (1) の表す状況と少しずつ違うものが見つかる。そこで，第３不定詞を伴わない場合について，似ている用例を並べてみると，例文 (1) を出発点とする，次のような意味の連鎖が現れるように思われる。

段階１： 人間がものを手にとってある場所に置く。
panna kirjat laukkuun 「本を鞄の中に入れる」(例文 (1) = PS, 項目 1.)
panna käsineet käteen 「手に手袋をはめる」(PS, 項目 1.)

段階２： ある場所にあったものを，別の場所に置く。
panna ruoka pöytään 「料理をテーブルに置く」(PS, 項目 1.)

段階２と段階３との中間段階：
panna ovi auki 「ドアを開ける」(PS, 項目 2.)
panna lapsi kouluun 「子供を学校にやる」(PS, 項目 3.)

段階３： ある状態にあったものを，別の状態に置く。
(状態を表すものとして，抽象名詞がくる)
panna kone käyntiin 「機械を動かす」(PS, 項目 2.)
panna joku syytteeseen 「誰かを罪に問う」(PS, 項目 3.)

もし，このような panna の意味の連鎖の中に，例文 (2) のような panna と第３不定詞の用法も位置付けることができるならば，例文 (1–2) で示した，全く異なるように思われる panna の２つの意味が，実は関連があることになる。この点で，以下のような，第３不定詞を伴う panna の用例の存在は注目に値する。

(3) ***Pan-na*** *levy* *soi-ma-an.*
put-1INF record.ACC sound-3INF-ILL 「レコードを鳴らす，かける」(PS, 項目 2.)

例文 (3) の表す状況は，レコードを音を出すという状態に置く，という点で，上述の意味の連鎖の**段階３**に属すると考えられる例文 (4) に非常によく似ている。

(4) ***Pan-na*** *kone* *käynti-in.*
put-1INF machine.ACC running-ILL 「機械を動かす (lit. 稼動状態にする)」(*ibid.*)

本発表では，第３不定詞を伴う動詞 panna のいくつかの用例 (用例の出典についてはレジュメ末を参照) の検討を通じ，例文 (2) と (3) に挙げたような用法を，以下のような形で，**段階１**から始まる動詞 panna の一連の意味の連鎖の中に加えることができることを主張する。

段階３′： ある状態にあったものを，別の状態に置く。
(状態をあらわすものとして，動詞の名詞形 (第３不定詞入格) がくる)
panna levy soimaan 「レコードを鳴らす，かける」(例文 (3) = PS, 項目 2.)

段階４： 人間に働きかけて何かをさせる。
Äiti pani pojan pyytämään anteeksi 「母親は息子を謝らせた」(例文 (2) = PS, 項目 4.)

さらに，**段階３′**と**段階４**との関係について，**(ア) 段階３′**，**段階４**の中間にあたると考えられる用例がある **(イ)** panna の意味の解釈が，文全体の解釈によって決まる，の２点を指摘する。

2 用例の検討

第３不定詞を伴う panna の用例で，最も典型的なのは，例文 (2) のように，有生の目的語をとる。採取された用例のうち，有生の目的語を含む例は８割 (72 例) に及ぶ。有生目的語を含む例で，典型的と思われる例を挙げる (例文 (5–8))。

(5) *Aikuis-i-a* *juutalais-i-a* ***pan-tiin*** *kaata-ma-an* *rakennuspu-i-ta.*
adult-PL-PAR Jewish-PL-PAR put-PASS.IMP fell-3INF-ILL wood-PL-PAR
「成人のユダヤ人たちは，材木を切り倒させられた」(sk-23:1697)

(6) *Ensin* ***panna-an*** *sihteeri* *lähettä-mä-än* *tiedote* *lehte-en.*
first put-PASS secretary.ACC send-3INF-ILL notice.ACC (news)paper-ILL
「まず秘書に通知を新聞 (社) に送らせる」 (sk-46:1442)

(7) *Enso-n* *tutkimuskeskus* ***pan-tiin*** *kehittä-mä-än* *uu-tta* *tuote-tta.*
E-GEN research center.ACC put-PASS.IMP develop-3INF.ILL new-PAR product-PAR
「ENSO (企業名) の研究所は新しい製品を開発させられた」(sk-49:2510)

(8) *Heidä-t* ***pan-naan*** *arvioi-ma-an* *oma-a* *jännittämise-n* *aste-tta-an*
they-ACC put-PASS estimate-3INF-ILL own-PAR strain-GEN grade-PAR
asteiko-lla *1–5.*
scale-ADE
「彼 (女) らは自分の緊張の度合いを５段階で評価させられる」(sk-25:684)

(フィンランド語の受動 (PASS) は，一種の不定人称で，主語を明示せず，不定の人間の動作主，行為者の存在を含意する。)

これらの例文では,「人が有生の対象に働きかけて，何かをさせる」ことが表されている。これからの例からは，panna の「ものをある場所に移動する」という意味は殆ど感じられない。

これに対し，最も一般的には無生名詞を目的語とする場合，panna の主体による働きかけは目的語に何かをさせるのではなく，指示対象自体の性質に影響を与える。その結果，働きかけの前と後では，目的語の指示対象の性質が異なる点に注目されたい。以下の例文 (9–12) では，(10) 以外は無生の目的語が現れている。

(9) *Työllistämistue-n* *ja* *starttilaina-n* *turvin* *hän* ***on***
employment support-GEN and start loan-GEN with the aid of (s)he be.3SG
pan-nut *paja-nsa* *kukoista-ma-an.*
put-PSPT smithy-ACC.PX3 flourish-3INF-ILL
「雇用補助と開業ローンのおかげで彼 (女) は自分の工場(こうば)を大いに繁盛させた」(sk-17:1144)

(10) *Nils Ferlin* ***on*** ***pan-tu*** *kauppakadu-lle* *palele-ma-an.*
N.F.-ACC be.3SG put-PASS.PSPT shopping street-ALL feel chilled-3INF-ILL
「N. F. (人名) は商店街で凍えさせられた」(sk-04:825)

(11) *Miksi* *rehtori-n* *lähtö* *virkavapaa-lle* ***ei*** ***pan-nut***
why principal-GEN departure.NOM sabbatical-ALL VNEG.3SG put-PSPT
hälytyskello-j-a *soi-ma-an?*
alarm bell-PL-PAR ring-3INF-ILL
「なぜ，学校長が研究休暇でいなくなることが，警鐘を鳴らさなかったのか？」(sk-05:415)

(12) *31* *prosentti-a* *vastanne-i-sta* ***pane-e*** *mene-mä-än* *yli* *500* *markka-a.*
.NOM percent-PAR replied-PL-ELA put-3SG go-3INF-ILL over .ACC mark-PAR
「回答者のうち 31% が 500 マルッカ以上を使う (lit. 行かせる)」 (sk-11:2629)

このような例では，panna は「ある状態にあったものを，別の状態に置く」という意味を表すと考えることができる。この場合も，panna のもつ意味は「ものをある場所に移動する」という意味に比べてかなり抽象的である。

これら例文 (5–8) と例文 (9–12) の２つのグループに分けられる用例は，さらに，panna の主体の働きかけと，それによって引き起こされる行為や状態が，前者では比較的ゆるやかな結びつきを示し，時間的・空間的にばらばらに起こりうるのに対し，後者では結びつきが緊密で，常に同時に起こる，という点でも違いがある。

「有生の対象に働きかけて，何かをさせる」と「ある状態にあったものを，別の状態に置く」という，第３不定詞を伴う panna の２つの意味は，典型的な例を見る限りでは相互にはっきり区別できるように思われるが，実際には以下に見るように，どちらともとれるような用例が存在する。

(13) *Nyt* *urheilutähde-n* *ura-n* *painee-t* *ja* *palkinno-t* ***pane-vat***
now sports star-GEN career-GEN pressure-PL.NOM and prize-PL.NOM put-3PL
häne-t *mietti-mä-än* *mi-tä* *elämä-ltä* *pitä-isi* *halu-ta.*
(s)he-ACC ponder-3INF-ILL what-PAR life-ABL must-COND want-1INF

「スポーツ界のスターとしてのキャリアのプレッシャーと見返りとが，今，彼 (女) に，人生から何を求めなければならないかを考えさせている」(sk-26:765)

(14) *Ihmis-i-llä* *voi* *ol-la* *voimakka-i-ta* *psykologis-i-a* *pidäkke-i-tä,*
people-ADE can.3SG be-1INF strong-PL-PAR psychological-PL-PAR stopper-PL-PAR
jotka ***pane-vat*** *heidä-t* *sopeutu-ma-an* *menossa oleva-an*
REL.PL.NOM put-3PL they-ACC adapt oneself-3INF-ILL in progress-ILL
trendi-in
trend-ILL
「自分たちを現在の趨勢に順応させるような，強い心理的な制御装置が人々にはありうる」(sk-22:1163)

これらは,「主語の無生の指示対象が，目的語の有生の指示対象がある行為を行うような状態に置く」と解することもできれば,「主語の無生の指示対象の働きかけに対し，有生の目的語が何かを行う」という意味にとることも可能である。従ってこれらの例では，第３不定詞を伴う panna の２つの意味の，どちらに入るともいえない。

panna の解釈の揺れの原因として，これらの例には２つの特徴が見出される。まず，第３不定詞で現れている動詞の意味の問題で，動詞の表す行為の主体が，果たして意図してその行為を行っているかどうかがはっきりしない。このような動詞には，純粋な (結果を伴わない) 精神活動 (例文 (13), *miettiä* 「考える」) や，結果がその主体自身に帰ってくるような種類の行為 (例文 (14), *sopeutua* 「順応する」) を表すものが含まれる。

第２に，これらの例では， 主語の指示対象が無生名詞 である。この場合，panna の主体の働きかけは抽象度を増し，結果として働きかけと，引き起こされる行為の結びつきの緊密さが増す。このような無生の主語をとる panna の例は，採集された第３不定詞を伴う panna の用例の３割強にもなる。

このような無生の主語をとる例には，上述の行為者の意図がはっきりしないタイプの第３不定詞をとる例が多い。実際，得られた無生主語の用例の殆どはこのパターンをとっている。ただし，次の例文 (15) が示すように，無生の主語が出れば必ず第３不定詞がこのタイプになるというわけでもない。

(15) *Luontoäiti* ***ol-isi*** ***pan-nut*** *äidi-t* *synnyttä-mä-än*
Mother Nature.NOM be-COND.3SG put-PSPT mother-PL.ACC give birth to-3INF-ILL
ensiksi *poja-n.*
first boy-ACC
「自然の摂理が母親に，まず先に男児を生ませたかもしれない」 (sk-33:400)

以下の例文 (16) では，人がすることが期待されている行為を，動物が行っている。

(16) *Tilanne* *on* *vähän* *sama* *kuin* *jos* ***pan-naan*** *kymmenen*
situation.NOM be.3SG a bit same.NOM as if put-PASS 10.ACC
miljardi-a *apina-a* *näppäile-mä-än* *kirjoituskone-tta.*
billion-PAR ape-PAR tap-3INF-ILL typewriter-PAR
「状況は，100 億の猿にタイプを打たせるのに少し似ている」 (sk-07:505)

人間にとって,「タイプする」ことは何かを表現するための知的行為であると考えられるが，言葉を知らない猿にとってこれは単なる身体の一部を使った動作に過ぎない。そのため，この例文は,「猿に働きかけて，タイプを打たせる」という意味よりも,「猿がタイプを打つような状態に置く」という意味に近づいていると考えられる。

この例は，panna がどのような意味をもつかは，文の要素全体から解釈されるもので，第３不定詞として現れる動詞の意味だけでは単純に決定できないことを示唆する。

3　まとめ

第３不定詞入格をとる panna の意味は,「ある状態にあったものを，別の状態に置く」という意味と「人間に働きかけて何かをさせる」意味の２つを両極とする広がりのなかで捉えることができる。２つの意味は不連続ではなく，また第３不定詞を伴う panna を含む文がどの意味であるかは，panna を含む文全体から判断されなければならない。

前者の意味が，不定詞を伴わない panna の用法のもつ意味とよく似ていることから，第３不定詞を伴う panna の用法は，panna の意味の連鎖の延長にあると考えられる。従って,「ものを手にとって置く」という用法を起点とする panna の他の用法から独立してこの構文を記述すべきではないと結論付けられる。

参考文献

Suomen kielen perussanakirja (本文中 PS と略している) = Haarala, Risto (Editor in Chief) 1990–1994, 1997[2] *Suomen kielen perussanakirja.* 『フィンランド語基礎辞典』 Helsinki: Kotimaisten kielten tutkimuskeskus.

略号について

グロスは形態素をハイフン - で区切る。マーカーの顕在しない語形のもつ情報や，文法情報を複数含むいわゆる鞄型形態素のグロスは，ピリオド . に続けて表記している。表記の簡略化のため，複合語や派生接辞等の形態分析は，本論に差し障りのない限りにおいて省略することがある。グロスに用いる略号は以下の通り:

&=列挙の小辞; 1,2,3=人称; 1INF=第 1 不定詞; 3INF=第 3 不定詞; ABL=奪格; ACC=対格; ALL=向格; COND=条件法; ELA=出格; GEN=属格; ILL=入格; IMP=未完了過去; INE=内格; NOM=主格; PAR=分格; PASS=受動; PL=複数; PRPT=現在分詞; PSPT=過去分詞; PX=所有接尾辞 (+人称,(数)); Q=疑問の小辞; REL=関係代名詞; SG=単数; VNEG=否定動詞

本文中，ことわりがない限り動詞は第１不定詞，名詞は主格の形で挙げる。また，例文は多少逐語的に訳し，もとの表現を保持するように試みている。

用例について

今回使用したフィンランド語の文語データは，フィンランドの週刊誌 *Suomen Kuvalehti* の 1987 年の記事全文を電子化したコーパス (ヘルシンキ大学一般言語学科所蔵，総語数およそ 120 万語) である。第３不定詞を伴う panna の用例は，このコーパスから 90 例採取された。

コーパスからえられた例文には，sk-[ファイル番号]:[行番号] という形で出典を記載している。また，紙幅の都合上，元の文意を損なわずに理解できる範囲で原文を簡略化することがある。